

学校部活動の地域連携・地域移行について

- 教員側の働き方改革という側面だけではなく、子どもたちを支える地域社会の仕組みづくり、としてとらえる必要がある。地域においては**学校と地域を結びつけるコーディネーターの担い手の確保が重要課題**。
- スポーツの基盤を支えてきた部活動がどうなるかというのは、スポーツ全体の将来を左右する重大な事項。**教育行政、スポーツ行政が協力して進めていくべき**。スポーツ行政側で行っていくべきことは何か。
- **地域連携・地域移行に関して課題、進行度は競技や地区によってバラつきがあると思うが、うまく進んでいる地域の取組を他のところにどう広げていくかが大事**。
- 部活動の地域連携・地域移行において、**学校から活動場所への移動手段の確保（保護者負担）は課題の一つ**。循環バスを学校ごとで回して、地域移行のスポーツ団体と連携をするような形で対応している自治体もあるようだ。
- **部活動のレベルに応じた地域連携・地域移行の方針も検討したほうがよいのではないか**。
- **学校の教員と地域移行先の指導者の連絡体制の構築が重要**。

スポーツ・身体活動を通じた健康増進について

- 座りっぱなしの課題について、スマートウォッチからの通知など、**気づかせてくれるような仕組みが必要**。
- **スポーツが健康に寄与するというデータや情報**を知るだけでもスポーツを身近に感じ、取り組むきっかけになるのではないかと。情報を効果的に発信していくことが大事。スポーツ以外の切り口で、いかに情報を効果的に広げるかが重要。
- **スポーツを「みる」「支える」の間に、「応援する」というような概念が有用ではないか**。
- 基礎自治体も計画をもってスポーツ推進を行っている。効果的な施策展開のためにも、経費補助含め**基礎的自治体と都が連携して進めていくことが重要**。
- **スポーツをしたらポイント付与する等、健康寿命を延ばす工夫をし、将来的に介護保険料や医療費の軽減につなげていく取組も重要**。
- **障害者にとっては身体の機能を維持するためにスポーツが有用。特に所属のない人、在宅の人へのスポーツ機会の提供が最重要**。
- スポーツにおいて「する」「みる」「支える」の3つとも行う人々は、**主観的な幸福度が高い**というスポーツ庁の調査結果がある。**ウェルビーイングを高めていくという視点が重要**。

スポーツを通じた地域・経済の活性化について

- 公共スポーツ施設における「誰もが平等に」という発想が、逆に利用者の使いにくさにつながっている側面がある。**利用者ニーズを考えた運用をしていくべき**。
- **スポーツからそれ以外の分野への関心や学びにつなげることも可能**。
- スポーツ施設の指定管理の期間が短いため、管理者が新たな設備投資をしづらいつという課題がある。**長期に安定的に管理ができるようになると、設備投資が促進され、収益を生み、地域を活性化する施設に変わっていくのではないかと**。
- **限られた財源をどうスポーツに振り向けるか、税金の使い方をPDCAできちんと検証し、ワイズスペンディングをしっかりと考えていくべき**。
- **地域の資源を活用し、スポーツと結び付け、地域の活性化につなげていくという視点を計画の中にも盛り込んでほしい**。
- スポーツ以外の活用方法により、**スポーツ関係以外の部署も巻き込むことで、財源確保や無関心層のスポーツへの関与のきっかけづくりにつながっていくのではないかと**。